

(様式1)

相談・通報・届出受付票

相談年月日	年 月 日 時 分 時 分	対応者：	所属機関：
相談者 (通報者)	氏名	受付方法	<input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> 来所 <input type="checkbox"/> その他 ()
	住所または 所属機関名	電話番号	
	本人との 関係	<input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 家族親族(同居・別居) 続柄： <input type="checkbox"/> 近隣住民・知人 <input type="checkbox"/> 民生・児童委員 <input type="checkbox"/> 相談支援事業所 <input type="checkbox"/> 障害福祉サービス事業所 <input type="checkbox"/> 教育機関 <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> 医療機関 <input type="checkbox"/> 警察 <input type="checkbox"/> その他 ()	

【本人の状況】

氏名		性別		生年月日	年 月 日	年齢	歳
現住所						住民票登録住所	<input type="checkbox"/> 同左 <input type="checkbox"/> 異
	電話：	その他連絡先：					(続
居所	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 病院 () <input type="checkbox"/> 施設 () <input type="checkbox"/> その他 ()						
程度区分	<input type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> 区分 () <input type="checkbox"/> 申請中 (月 日) <input type="checkbox"/> 未申請 <input type="checkbox"/> 申請予定						
利用サービス	障害福祉サービス	<input type="checkbox"/> 有 () <input type="checkbox"/> 無					
	その他サービス	<input type="checkbox"/> 有 () <input type="checkbox"/> 無		相談支援 事業所			
主障害	<input type="checkbox"/> 身体障害 () <input type="checkbox"/> 知的障害 () <input type="checkbox"/> 精神障害 () <input type="checkbox"/> その他						
障害者手帳	<input type="checkbox"/> 有 (種別： 等級：) <input type="checkbox"/> 無		その他特記事項：				
経済状況						生活保護受給	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

【本人の意向など】※生活歴，キーパーソン，関係機関などわかる範囲で書き込む

--

【世帯構成】

家族状況（ジェノグラム）

【養護者の状況】

氏名		年齢		歳
続柄	<input type="checkbox"/> 親（ ） <input type="checkbox"/> きょうだい（ ） <input type="checkbox"/> 子（ ）			
	<input type="checkbox"/> 子の配偶者（ ） <input type="checkbox"/> その他（ ）			
連絡先				
	電話番号		職業	
その他特記事項				

【主訴・相談の概要】

相談内容	
虐待の可能性	<input type="checkbox"/> 身体的虐待 <input type="checkbox"/> 性的虐待 <input type="checkbox"/> 心理的虐待 <input type="checkbox"/> 介護・世話の放棄・放任 <input type="checkbox"/> 経済的虐待 (具体的内容を記載)
情報源	相談者（通報・届出者）は、 <input type="checkbox"/> 実際に目撃した <input type="checkbox"/> 怒鳴り声や泣き声、物音等を聞いて推測した <input type="checkbox"/> 本人から聞いた <input type="checkbox"/> 関係者（ ）から聞いた

【今後の対応】

<input type="checkbox"/> 相談終了： <input type="checkbox"/> 聞き取りのみ <input type="checkbox"/> 情報提供・助言 <input type="checkbox"/> 他機関への取次・斡旋（機関名： ） <input type="checkbox"/> その他（ ）
<input type="checkbox"/> 相談継続： <input type="checkbox"/> 相談支援事業所等による継続相談（内容： ） <input type="checkbox"/> 障がい者虐待 <input type="checkbox"/> その他（ ）
備考

(様式2)

障がい者虐待リスクアセスメント・チェックシート

氏名	担当者・機関	評定年月日	年	月	日	
I. 虐待の程度 (「状況」欄：該当する…○、疑い…△、不明…?)						
I-1 現在の虐待の状況					状況	特記事項
最 重 度	身体的虐待	身体の内臓のいずれかの部位に、入院を必要とする外傷・骨折・火傷がある 健康に有害な食物や薬物を与えられている 本人の自殺企図 一家心中(未遂を含む) 四六時中、ベッドや部屋に拘束・監禁されている 法定の労働安全・衛生の遵守されていない職場で働かされている				
	ネグレクト	脱水・栄養不足による衰弱がある 潰瘍や褥瘡が悪化している 口腔内の出血・腫れ 治療中の服用薬を飲んでいない、飲ませてもらえない 生命にかかわる医療拒否がある(宗教やオカルトを理由する場合を含む) ライフラインがすべて止まっている				
	性的虐待	性行為・わいせつな行為を強要されている 性風俗業で働くことを強要されている 性感染症に罹患している				
	経済的虐待	本人名義の預貯金・資産が家族・他者に不当に流用・処分されている 悪徳商法の業者に多額の金銭を巻き上げられている 最低賃金以下で働かされている				
	身体的虐待	身体の内臓のいずれかの部位に、通院を必要とする外傷・骨折・火傷がある 外出・通信が著しく制限されている				
重 度	ネグレクト	著しい体重の増減がある 偏食・不衛生・不眠によって健康に明らかな問題がある 家族と同居しているが、実質的な世話・介護者はいない 必要な福祉サービスを受けることができない 必要な医療を受けることができない 医療機関の指示と異なる服薬調整が行われている 本人が家出・徘徊をしても放置するか、無関心である				
	心理的虐待	家族の自殺企図 家族や身近な人から本人の意向にそぐわない宗教・オカルトを強要される				
	性的虐待	性的ないやがらせ、はずかしめを受けている 障害を理由に、他者が交際する異性との関係を引き裂く				
	経済的虐待	本人名義の預貯金・資産が本人の了解なく家族・他者に管理されている 遺産相続等で差別的な扱いを受けている 悪徳商法の業者に接近されている				
	身体的虐待	通院を必要とするほどではないが、治療の必要な外傷・火傷がある 繰り返し傷・あざがある 外出・通信が自由にできない、行事への参加を制限されている				
中 度	ネグレクト	健康問題につながる可能性のある偏食や不衛生等、衣食住の不適切さがある 必要な医療を受けることを制限されることがある 必要な福祉サービスの利用を制限されることがある 本人がしばしば欠席・欠勤していても連絡をしてこないか、無関心である				

中度	心理的虐待	無視・暴言・乱暴な扱い・締め出し・懲罰的な扱いによって情緒的問題が出ている		
	性的虐待	必要な医療・福祉サービスの内容を周囲が勝手に決める 養護者から強い拒否感の訴えがある 障害を理由に、他者から異性との交際を禁じられている 他者から窺視や不自然なアプローチを受けている(関係妄想と区別する)		
	経済的虐待	「小遣いがあまりもらえない」と訴える 周囲の人間からお金をたかられている		
軽度	身体的虐待	治療の必要はない程度の外傷がある 養護者から暴力を振るってしまうとの訴えがある		
	ネグレクト	健康問題がただちに生じるほどではないが、衣食住の不適切さがある 本人・周囲ともに必要な医療や福祉サービスの内容を考慮することができない		
	心理的虐待	無視・暴言・乱暴な扱い・締め出し・懲罰的な扱いを受けている 家族の間にけんかや争いごとがしばしば起きる 養護者から拒否感の訴えがある		
I-2 過去の不適切な状況			状況	特記事項
重度	虐待による入院歴、分離保護歴がある(子ども期を含む)			
	DVによる入院歴、分離保護歴がある			
	子ども期からずっと必要な支援を受けていない			
	性的虐待を被った経験がある 性風俗業で働いた経験がある			
中度	虐待による通院歴がある 不安定な性的交友関係の継続的経験がある			
	本人以外の家族に、DVや虐待による入院歴、分離保護歴がある			
軽度	虐待の通告歴がある			
	本人以外の家族に、DVや虐待による通院歴がある			
I-3 本人と虐待者の距離・パワーバランス			状況	特記事項
本人と虐待者は同居	虐待者は一人(身近に虐待を抑止できる人が:いる いない)			
	虐待者は複数(身近に虐待を抑止できる人が:いる いない)			
本人と虐待者は日中のほとんどを共有	虐待者は一人(身近に虐待を抑止できる人が:いる いない)			
	虐待者は複数(身近に虐待を抑止できる人が:いる いない)			
虐待者とはたまに会う関係	虐待者は一人(身近に虐待を抑止できる人が:いる いない)			
	虐待者は複数(身近に虐待を抑止できる人が:いる いない)			

各項目に現れない特記事項						
評定						
I-1 現在の虐待の状況	最重度	重度	中度	軽度	問題なし	不明
I-2 過去の不適切な状況		重度	中度	軽度	問題なし	不明
I-3 距離・パワーバランス	虐待は抑止できない	工夫次第で抑止可能		虐待は抑止できている		不明
I. 虐待の程度	最重度	重度	中度	軽度	問題なし	不明

Ⅱ. 本人の状況		〔状況〕欄：該当する…○、疑い…△、不明…？				
Ⅱ-1 現在の状況		該当する項目に○、疑いのある項目に△、()内は具体的補足			状況	特記事項
障害	()				-	
身体状況	低体重 肥満 栄養不良 衰弱					
	外傷 火傷 痣 (部位:)					
	虫歯 口腔内疾患 ()					
	褥瘡 皮膚疾患 ()					
	性感染症 ()					
	その他の疾患 ()					
生活状況	不潔 異臭 口臭 髪の毛のべたつき ふけ あかぎれ しもやけ					
	大食い 盗み食い 偏食 睡眠リズムの乱れ 不眠 睡眠不足					
情緒	攻撃的 衝動的 怒り 乱暴 (他者に 動物に)					
	怯え (顔色をうかがう 人を恐れる 視線をそらす おどおどする)					
	抑うつ (表情が乏しい マスクをかぶったような笑い)					
	とじこもり ひきこもり べたべた甘える (家 職場 施設 その他)のことを話したがない					
アディクション (嗜癖・依存)	アルコール 麻薬・覚せい剤 その他の薬物					
	ギャンブル 買い物 異性関係					
反社会的・脱社会的行動	希死念慮 自殺企図					
	家出の訴え 家出企図 徘徊					
	万引き 窃盗 不純異性交遊					
社会生活上の問題	通勤・適所の不安定 (欠勤・欠席 遅刻 早退)					
	孤立 (家 職場 施設等 その他)					
Ⅱ-2 リスク要因		該当する項目は○、疑いのある項目は△、()内は具体的補足				
主たる障害以外の病歴	疾病名()	・	_____	歳頃)		
	疾病名()	・	_____	歳頃)		
	疾病名()	・	_____	歳頃)		
現在の養護者との別居歴()						
現在の配偶者との別居歴()						

各項目に現れない特記事項					
評 定					
Ⅱ-1 現在の状況	重度	中度	軽度	問題なし	不明
Ⅱ-2 リスク要因	重度	中度	軽度	問題なし	不明
Ⅱ. 本人の状況	重度	中度	軽度	問題なし	不明

Ⅲ. 虐待者の状況		〔状況〕欄：該当する…○、疑い…△、不明…？			
Ⅲ-1 現在の状況 該当する項目に○、疑いのある項目に△、()内は具体的補足		状況	特記事項		
疾患・障害の有無	認知症 足腰の弱り 精神疾患・精神障害() 身体障害 知的障害 発達障害 その他の疾患()				
情緒・性格	攻撃的・暴力的・威圧的言動 衝動的 感情の高ぶりを抑制できない 強迫的・束縛的言動(○○しなさい、○○でなければならない) 認知の歪み(自分勝手な受けとめ方・思いこみ・自分の考えへの強い執着) 共感性の欠如(相手の気持ちや立場を理解できない) 孤立 非社会的 対人関係の困難が高い				
アディクション(嗜癖・依存)	アルコール 麻薬・覚せい剤 その他の薬物 ギャンブル 買い物 異性関係				
反社会的・脱社会的行動	希死念慮 自殺企図 家出企図 徘徊 万引き 窃盗 福祉サービスの利用・介入に拒否的である				
本人との親密さ・関係性	拒否(嫌悪する 排除する 厄介者扱い 他の者との差別) 諦観(本人のことを腐れ縁、自立できない人間とあきらめている) 無関心(注意を向けない) 支配・執着(思いどおりにコントロールしようとする) 過度の要求(強迫的な課題・役割の押しつけ) 依存(ひたすら本人のために献身していないと不安になる)				
虐待の認識	否定(していない、知らない、本人の不注意・責任だと言い張る) 正当化(行為の事実は認めるが、しつけであると本人の問題を指摘する)				
同居者・同僚・身近な人の態度	同調(虐待行為を容認し加担する) 黙認(虐待行為を知っているが、止めさせようとしない) 観客(虐待行為を容認し、面白そうに見ている) 回避(虐待行為の事実そのものに気づかないふりをする)				
Ⅲ-2 リスク要因 該当する項目は○、疑いのある項目は△、()内は具体的補足					
被虐待・被DV歴	誰から()歳頃) 誰から()歳頃)				
虐待・DV歴	誰に()歳頃) 誰に()歳頃)				

各項目に現れない特記事項					
評 定					
Ⅲ-1 現在の状況	重度	中度	軽度	問題なし	不明
Ⅲ-2 リスク要因	重度	中度	軽度	問題なし	不明
Ⅲ. 虐待者の状況	重度	中度	軽度	問題なし	不明

IV. 家族の状況		〔状況〕欄：該当する…○、疑い…△、不明…？			
IV-1 現在の状況 該当する項目に○、疑いのある項目に△、()内は具体的補足		状況	特記事項		
家族関係	高い感情表出を伴う関係 ・批判的・干渉的コメントが多い ・けんか腰や敵意ある相互の言動が目立つ ・大きな感情のもつれ・感情の巻き込みが多い				
	束縛的なルールの強制 ・外出・通信の制限 ・柔軟性と合理性にかける家庭内役割の強制				
経済的問題	ひとり親家庭 内縁者の同居・出入り				
	失業中(求職中 就職をあきらめている 求職の意志はない)				
	不安定就労(不定期就労 日々雇用 休職中)				
	多額の負債				
	光熱水費・電話代・家賃の滞納				
生活環境	本人の障害年金が家族の生計費に重みをもっている				
	準要保護 生活保護(申請中 受給中)				
関係機関の受け入れ	不衛生(異臭、室内にゴミ散乱)				
	家事が実質的に営まれていない(食事、洗濯、入浴、掃除)				
	拒否・抵抗(接触を拒む、電話・訪問に応じない、根深い不信)				
関係改善の媒介者	接触困難(連絡が取れない、応答がない)				
	社会的孤立(近隣や友人、当事者組織との交流がない)				
本人と虐待者との関係改善を媒介できる第三者の存在 (あり: 親族 知人、なし)					
各項目に現れない特記事項					
評 定					
IV. 家族の状況	重度	中度	軽度	問題なし	不明

評価シート

氏名		評価協議した機関・チーム	
評価日	年 月 日		

※評価は単独の支援者によるものではなく、虐待対応チームが組織的に協議して実施すること

A. 事実確認の経過記録				
	実施年月日	実施機関	担当者氏名 (必ず複数)	方 法
最初の安全確認	年 月 日			
事実確認 ①	年 月 日			
事実確認 ②	年 月 日			
事実確認 ③	年 月 日			

B. 最終評価						
I. 虐待の状況	最重度	重度	中度	軽度	問題なし	不明
II. 本人の状況		重度	中度	軽度	問題なし	不明
III. 虐待者の状況		重度	中度	軽度	問題なし	不明
IV. 家族の状況		重度	中度	軽度	問題なし	不明
介入の緊急度	非常に高い <small>(取り急ぎ介入)</small>	やや高い <small>(落ち着いた介入)</small>	状況の推移次第 <small>(様子を見て介入)</small>		やや低い <small>(あまり介入の必要はない)</small>	低い <small>(介入は不要)</small>
支援の 必要度	本人	非常に高い <small>(全面的な多くの支援)</small>	やや高い <small>(多くの支援)</small>	ターゲットを絞った支援の必要 <small>(部分的でインテンシブな支援)</small>		通常の支援 <small>(通常支援の範囲内)</small>
	家族 ()	非常に高い <small>(全面的な多くの支援)</small>	やや高い <small>(多くの支援)</small>	ターゲットを絞った支援の必要 <small>(部分的でインテンシブな支援)</small>		通常の支援 <small>(通常支援の範囲内)</small>

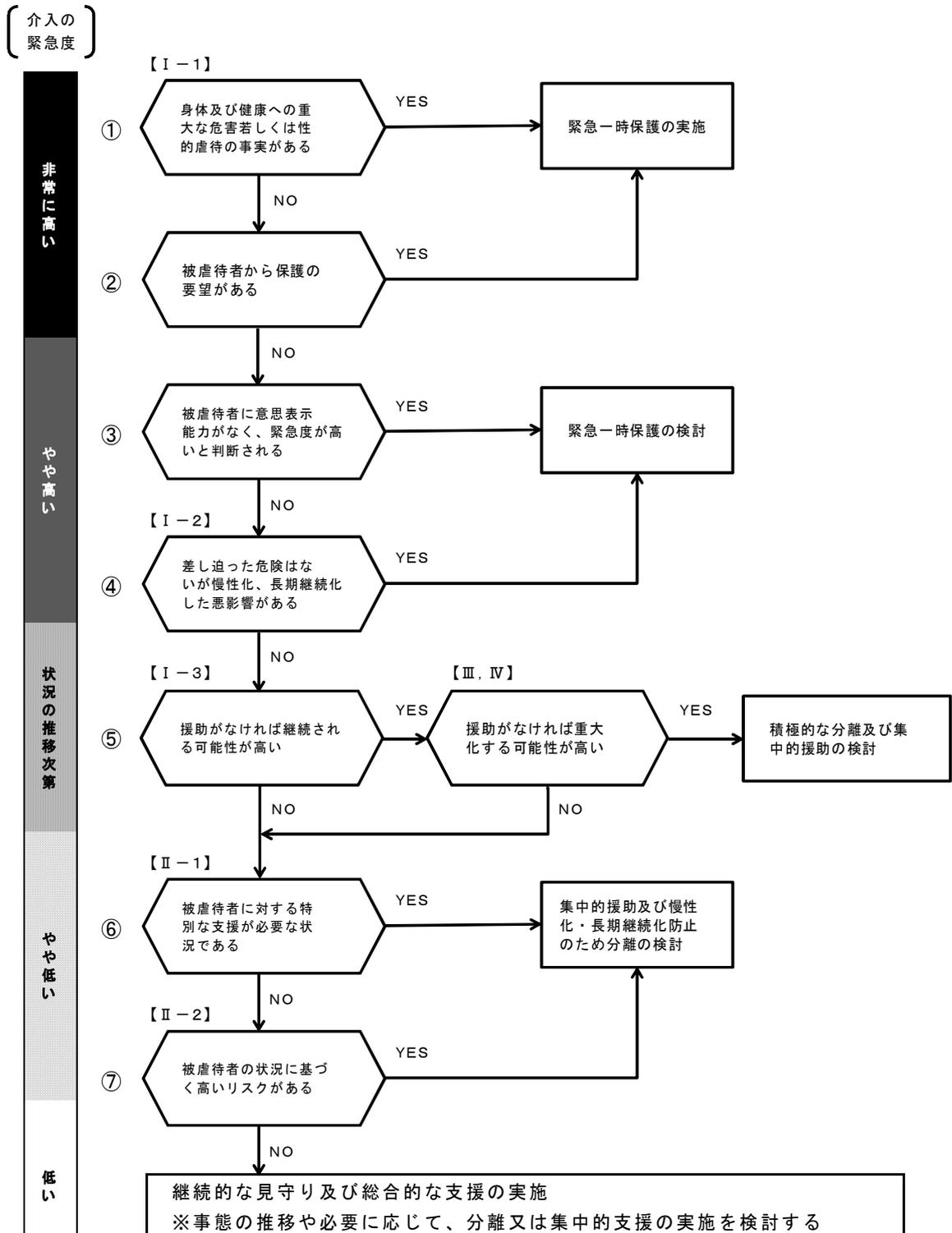
C. 支援の利用状況

D. 虐待対応チーム	
ケースマネジメント機関	
現在の虐待対応チームの構成	
新たに加えるべき機関	

E. 当面する支援の重要課題		
順位	支援課題	対応方法
1		
2		
3		

■ 分離・集中的援助における要否判断の手順について

「障がい者虐待リスクアセスメント・チェックシート」における評定を、次のフローチャートに当てはめて、「分離・集中的援助の要否判断の判断」を行ってください。つまり、このフローチャートは、障がい者虐待リスクアセスメント・チェックシートと併せて活用するものとなります。



※ 緊急度が高いにもかかわらず、介入への拒否がきわめて強く、事実確認が困難な場合や養護者から物理的な抵抗を受けるおそれがある場合などは、警察への援助要請を検討すること

各項目に付したローマ数字は障がい者虐待リスクアセスメント・チェックシートにおける評定項目に、「介入の緊急度」は同シートにおける最終評定の同名項目にそれぞれ対応する。

■ 虐待状況からの判断基準（前ページのフローチャートに対応）

①② 介入の緊急度：非常に高い【最重度】

→ 生命、心身の健康、生活に重大な危険が生じている状態
身体的暴力・極度のネグレクトによって、生命の危険がある、あるいは、そのような状態に陥る可能性が高い。また、性的虐待の事実がある。

<例>

- ・ 入院を必要とする外傷（特に、頭部・腹部・大きな外傷等）
- ・ 骨折・火傷がある
- ・ 脱水症状・栄養不足による衰弱がある
- ・ 性行為・わいせつな行為を強要されている
- ・ 本人名義の預貯金・資産が家族・他者に不当に流用・処分されている
- ・ 本人から保護の要望が出ている 等

<対応>

緊急一時保護、関係機関・かかりつけ医への連絡、入院・入所の手続き等を行う。

③④ 介入の緊急度：やや高い【重度】

→ 心身の健康に、慢性化・長期継続化による重大な悪影響がある状態
今すぐには生命に危険はないと感じられるが、虐待が慢性化・長期継続化していること等から、現に障がい者の健康や生活に重大な影響が生じている。

<例>

- ・ 通院を必要とする外傷（多数の打撲傷・挫傷、目の周りの傷等）
- ・ 骨折・火傷がある
- ・ 偏食・不衛生・不眠によって健康に明らかな問題がある
- ・ 必要な医療や福祉サービスの利用を受けることができない
- ・ 性的ないやがらせ、はずかしめを受けている

<対応>

緊急一時保護を念頭に置きながら、障害福祉サービスの導入等、重点的かつ多くの支援を実施する。

⑤ 介入の緊急度：状況の推移次第【中度】

→ 心身の健康に悪影響がある状態
今すぐには生命に危険はないと感じられるが、障がい者の健康や生活に重大な影響が生じる可能性がある。

<例>

- ・ 繰り返し傷・あざができる
- ・ 必要な医療や福祉サービスの利用を制限されることがある
- ・ 周囲の人間からお金をたかられている

<対応>

適切な障害福祉サービス等の導入や見守りを続け、障がい者や虐待者が自ら援助を求める等、他の問題が出てくれば、緊急に介入する。

⑥⑦ 介入の緊急度：やや低い・低い【軽度】

→ 意思が無視・軽視されている状態

健康問題を起こすほどではないが、障がい者のケアにムラがあり、きちんとケアしていない状態。

<例>

- ・ 治療の必要はないの程度の外傷がある
- ・ 健康問題がただちに生じるほどではないが、衣食住に不適切さがある
- ・ 無視・暴言・乱暴な扱い・締め出し・懲罰的な扱いを受けている

<対応>

関係機関でチームを組み、サポート・監視下で経過観察し、環境を含めた調整、具体的な援助を通じて注意深くフォローアップしていく。

■ 緊急性の判断材料

虐待対応には、緊急一時保護をはじめとした緊急的な対応が必要な場合があります。緊急度は、総合的に判断する必要があります。障がい者の生命に危険はあるか、医療の必要性はどうか、過去に不適切な状況はなかったか、虐待を受けている本人にリスク要因はないか、虐待を行っている人の心身の状態はどうか、家族の関係機関の受入れ状況はどうか等に着目した上で、虐待を行っている人との分離の必要性があるか等、緊急性について関係機関で協議を行い、総合的に判断を行います。

「障がい者虐待リスクアセスメント・チェックシート」は以下に記載した項目を含め構成されておりますので、シートを必ず活用し、虐待の緊急性について総合的な判断を行ってください。

項目	緊急性が高い状況（例）
虐待の状況	<ul style="list-style-type: none">・ 医療を必要とする外傷（特に、頭部・腹部・大きな外傷等）・ 骨折・火傷がある・ 脱水症状・栄養不足による衰弱がある・ 必要な医療や福祉サービスの利用を受けることができない・ 性行為・わいせつな行為を強要されている・ 本人名義の預貯金・資産が家族・他者に不当に流用・処分されている 等

過去の不適切な状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待もしくはDVによる入院歴，分離保護歴がある ・ 子ども期からずっと必要な支援を受けていない ・ 性的虐待を被った経験がある 等
本人と虐待者の距離・パワーバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人と虐待者は同居し，日中のほとんどの時間を共有している ・ 身近に虐待を抑止できる抑止できる人がいない 等
本人（障がい者）の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情緒不安定（攻撃的・怯え・抑うつ等） ・ アディクション（アルコール・薬物等）に問題を抱えている ・ 自殺企図・家出企図等，反社会的・脱社会的行動が見られる ・ 通勤・通所が著しく不安定である 等
虐待者の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神疾患・認知症による症状が著しい ・ 衝動的であり，感情の高ぶりを抑制できない ・ 自分勝手な受けとめ方・思いこみ等，認知に歪みがある ・ アディクション（アルコール・薬物等）に問題を抱えている ・ 自殺企図・万引き等，反社会的・脱社会的行動が見られる ・ 虐待行為を否定もしくは正当化している 等
家族の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的な問題を抱えている ・ 家事が実質的に営まれていない ・ 関係機関の受け入れを拒否・抵抗している ・ 社会的に孤立している 等

(様式3)

身分証明書 (立入調査)

(表)

証 票	
第 号	年 月 日 交付
所 属 氏 名	

上記の者は、障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律第11条の規定による、立入調査を行う職員であることを証明する。

函 館 市 長 印

(裏)

障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律
(通報等を受けた場合の措置)

第9条 市町村は、第7条第1項の規定による通報又は障害者からの養護者による障害者虐待を受けた旨の届出を受けたときは、速やかに当該障害者の安全の確認その他当該通報又は届出に係る事実の確認のための措置を講ずるとともに、第35条の規定により当該市町村と連携協力する者（以下「障害者虐待対応協力者」という。）とその対応について協議を行うものとする。

2 市町村は、第7条第1項の規定による通報又は前項に規定する届出があった場合には、当該通報又は届出に係る障害者に対する養護者による障害者虐待の防止及び当該障害者の保護が図られるよう、養護者による障害者虐待により生命又は身体に重大な危険が生じているおそれがあると認められる障害者を一時的に保護するため迅速に当該市町村の設置する障害者支援施設又は障害者自立支援法第五条第六項の厚生労働省令で定める施設（以下「障害者支援施設等」という。）に入所させる等、適切に、身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第18条第1項若しくは第2項又は知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）第15条の4若しくは第16条第1項第2号の規定による措置を講じるものとする。この場合において、当該障害者が身体障害者福祉法第四条に規定する身体障害者（以下「身体障害者」という。）及び知的障害者福祉法にいう知的障害者（以下「知的障害者」という。）以外の障害者であるときは、当該障害者を身体障害者又は知的障害者とみなして、身体障害者福祉法第18条第1項又は若しくは第2項又は知的障害者福祉法第15条の4若しくは第16条第1項第2号の規定を適用する。

3 市町村長は、第7条第1項の規定による通報又は第1項に規定する届出があった場合には、当該通報又は届出に係る障害者に対する養護者による障害者虐待の防止並びに当該障害者の保護及び自立の支援が図られるよう、適切に、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第51条の11の2又は知的障害者福祉法第28条の規定により審判の請求をするものとする。

(立入調査)

第11条 市町村長は、養護者による障害者虐待により障害者の生命又は身体に重大な危険が生じているおそれがあると認めるときは、障害者の福祉に関する事務に従事する職員をして、当該障害者の住所又は居所に立ち入り、必要な調査又は質問をさせることができる。

2 前項の規定による立ち入り及び調査又は質問を行う場合においては、当該職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係者の請求があるときは、これを提示しなければならない。

3 第1項の規定による立ち入り及び調査又は質問を行う権限は、犯罪捜査のために認められたものと解釈してはならない。

(日本工業規格A列7番)

(様式4)

函 福 障 年 月 日			
○ ○ 警察署長 殿		函館市長 印	
障がい者虐待事案に係る援助依頼書			
障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律第12条第1項及び同条第2項の規定により、次のとおり援助を依頼します。			
依頼事項	日時	年 月 日 時 分～ 時 分	
	場所		
	援助方法	<input type="checkbox"/> 調査の立会い <input type="checkbox"/> 周辺での待機 <input type="checkbox"/> その他 ()	
障害者	障害の内容		
	(ふりがな) 氏 名	<input type="checkbox"/> 男 ・ <input type="checkbox"/> 女	
	生年月日	年 月 日生 (歳)	
	住 所	<input type="checkbox"/> 上記援助依頼場所に同じ <input type="checkbox"/> その他 ()	
	電 話	() - 番	
	職 業 等		
援助者等	(ふりがな) 氏 名	<input type="checkbox"/> 男 ・ <input type="checkbox"/> 女	
	生年月日	年 月 日生 (歳)	
	住 所	<input type="checkbox"/> 上記援助依頼場所に同じ <input type="checkbox"/> その他 ()	
	電 話	() - 番	
	職 業 等		
虐待の状況	行為類型	<input type="checkbox"/> 身体的虐待 <input type="checkbox"/> 性的虐待 <input type="checkbox"/> 心理的虐待 <input type="checkbox"/> 放棄・放置 <input type="checkbox"/> 経済的虐待	
	虐待の内容		
障害者の生命又は身体に重大な危険が生じていると認める理由			
警察の援助を必要とする理由			
担当者・連絡先	所属・役職		氏名
	電話 () - 番 内線 携帯電話 - - 番		

(様式5)

障害者福祉施設従事者等による障がい者虐待について（報告）

本件は、当市町村において事実確認を行った事案

障害者福祉施設従業者等による障がい者虐待の事実が認められた事案である。
 特に、下記の理由により、悪質なケースと判断したため、都道府県の迅速な対応を行う必要がある事案である。

更に都道府県と共同して事実の確認を行う必要がある事案である。

()

(注) 不明の項目については記載しなくてもよい。

1 障害者福祉施設等の名称、所在地及びサービス種別

・名 称	:	_____
・サービス種別	:	_____
		(事業所番号: _____)
・所在地	:	_____
		TEL _____ FAX _____

2 障害者福祉施設従事者等による障がい者虐待を受けた又は受けたと思われる障がい者の性別、年齢及び障害種別その他の心身の状況

氏 名		性別 ()	年齢 ()
障害の種類 (程度区分)	身体障害 知的障害 精神障害 その他 ()		
	障害程度区分 非該当 1 2 3 4 5 6 不明等		
心身の状況			

3 虐待の種別、内容及び発生要因

虐待の種別	身体的虐待 性的虐待 経済的虐待 放棄・放任 その他 ()	心理的虐待
虐待の内容		
発生要因		

4 虐待を行った障害者福祉施設従事者等の氏名、生年月日及び職種

氏名 (※)		生年月日 (※)	
(資格を有する者についてはその資格及び職名を、その他の者については職名及び職務内容を記載すること)			

5 市町村が行った対応

施設等に対する指導
 施設等からの改善計画の提出依頼
 虐待を行った障害者福祉施設従事者への注意・指導
 その他 (具体的に記載すること)

()

6 虐待を行った障害者福祉施設等において改善措置が行われている場合にはその内容

施設等からの改善計画の提出
 その他 (具体的に記載すること)

()

障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律第17条の規定に基づき、上記のとおり報告する。

年 月 日

北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課

函館市長名



市長印

(様式6)

函 福 障
年 月 日

北海道知事 あて

函館市長 印

使用者による障がい者虐待に係る通知

障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律第23条の規定に基づき、下記のとおり通知する。

記

1 通知資料

- ① 労働相談票（使用者による障がい者虐待）
- ② 添付資料（具体的に記載）

2 連絡先

担当部署	保健福祉部障がい保健福祉課	担当者名	
電話番号	0138-21-3302		

(様式7)

労働相談票（使用者による障がい者虐待）

（受付台帳番号）

		(受付台帳番号)				処理欄		
受付等	受付年月日	年 月 日		来庁等	1.来庁 2.電話 3.文書等 4.発見等		来庁等	
	障がい者虐待に関する 通報・発見等の端緒	【市町村記入欄】 ()	【都道府県記入欄】 ()	【労働局等記入欄】 ①監督署等 ②安定所等 ③均等室 ④企画室 ⑤その他			発見等 端緒	
		1 通報 2 届出	3 通報 4 届出	5 相談 6 発見				
通報（届出）者の 事項	通報（届出）者氏名				性 別 1.男 2.女 3.不明			
	事業所への 通知の諾否	通報・届出の有無 諾・否		通報者氏名の通知 諾・否		被虐待者氏名の通知 諾・否		
	被虐待者との関係	1.相談支援専門員・障害者福祉施設従事者等 2.近隣住人・知人 3.民生委員 4.被虐待者本人 5.家族・親族 6.虐待者自身 7.当該市区町村行政職員 8.警察 9.職場の同僚 10.都道府県労働局からの通報 11.教職員 12.医療機関関係者 13.その他() 14.不明(匿名を含む)						関係
	住 所							
	電 話 番 号	TEL - -		携帯TEL - -				
	被虐待者に 関する事項	被虐待者氏名				性 別 1.男 2.女 3.不明	生 年 月 日	年 齢
年 齢 区 分		1.～17歳 2.18～19歳 3.20～24歳 4.25～29歳 5.30～34歳 6.35～39歳 7.40～44歳 8.45～49歳 9.50～54歳 10.55～59歳 11.60～64歳 12.65歳以上 13.不明					年 齢	
障 害 の 種 類		1.身体障害 2.知的障害 3.精神障害(発達障害を除く) 4.発達障害 5.その他心身の機能の障害					種 類	
雇 用 形 態		1.正社員 2.パート・アルバイト 3.派遣労働者 4.期間契約社員 5.その他() 6.不明					形 態	
障 害 程 度 区 分		1.区分1 2.区分2 3.区分3 4.区分4 5.区分5 6.区分6 7.なし 8.不明					程 度 区 分	
心 身 の 状 況								
住 所								
電 話 番 号	TEL - -		携帯TEL - -					
事業所に 関する事項	事 業 所 名	(事業所が【就労継続支援A型】の指定を受けているかどうか 有・無)						
	代 表 者 職 氏 名							
	担 当 者 職 氏 名							
	所 在 地							
	電 話 番 号	TEL - -		FAX - -				
	規 模	1.5人未満 2.5～29人 3.30～99人 4.100～499人 5.500～999 6.1000人以上 7.不明						規 模
業 種	1.農業、林業 2.漁業 3.鉱業、採石業、砂利採取業 4.建設業 5.製造業 6.電気・ガス・熱供給 ・水道業 7.情報通信業 8.運輸業、郵便業 9.卸売業、小売業 10.金融業、保険業 11.不動産業、物品賃貸業 12.学術研究、専門・技術サービス業 13.宿泊業、飲食サービス業 14.生活関連サービス業、娯楽業 15.教育、学習支援業 16.医療、福祉 17.複合サービス事業 18.サービス業(他に分類されないもの) 19.公務 20.分類不能の産業 21.不明					業 種		

使用者に関する事項	使用者名	性別			年齢	性別
		1.男 2.女 3.不明				
	年齢区分	1. ~29歳 2. 30~39歳 3. 40~49歳 4. 50~59歳 5. 60歳以上 6. 不明				年齢
	被虐待者との関係	1.事業主 2.所属の上司 3.所属以外の上司 4.その他() 5.不明				関係
虐待の種別	10.身体的虐待 20.性的虐待 30.心理的虐待 40.放置等 50.経済的虐待 41.放置等(身体的虐待) 42.放置等(性的虐待) 43.放置等(心理的虐待)				種別	
虐待の内容・対応等	虐待の内容及び発生要因					
	市町村又は都道府県が行った対応					
	使用者による虐待が行われた事業所において改善措置が採られている場合にはその内容					

※ 特記色を付した部分は、省令により都道府県から労働局に報告する内容であるため、確認のうえ、記載すること

(様式 8)

虐待防止チェックリスト 職員用(入所施設)

	よくある	時々ある	たまにある	ない
1. 入所者への体罰など				
①入所者に対して殴る、蹴る、その他けがをさせるような行為を行ったことがある。				
②入所者に対して、身体的拘束や長時間正座・直立等の肉体的苦痛を与えたことがある。				
③入所者に対して、食事を抜くなどの人間の基本的欲求に関わる罰を与えたことがある。				
④入所者に対して、強制的に髪を切るなどの精神的苦痛を与えたことがある。				
⑤入所者に対する他の職員の体罰を容認したことがある。				
2. 入所者への差別	よくある	時々ある	たまにある	ない
①入所者を子ども扱いするなど、その人の年齢にふさわしくない接し方をしたことがある。				
②入所者の障がいの程度、状態、能力、性、年齢等で差別したことがある。				
③障がいにより克服困難なことを、入所者本人の責めに帰すような発言をしたことがある。				
④入所者の言葉や歩き方等の真似をしたことがある。				
⑤入所者の行為を嘲笑したり、興味本位で接したことがある。				
3. 入所者に対するプライバシーの侵害	よくある	時々ある	たまにある	ない
①職務上知り得た入所者個人の情報を他に漏らしたことがある。				
②入所者の同意を事前を得ることなく、郵便物等の開封、所持品を確認したことがある。				
③入所者の了解なしに居室、寝室に入ったことがある。				
④・a(男性職員が)女性入所者の入浴、衣服の着脱、排泄、生理等の介助をしたことがある。				
・b(女性職員が)男性入所者の入浴、衣服の着脱、排泄等の介助をしたことがある。				
⑤入所者本人や家族の了解を得ずに、本人の写真や制作した作品を展示したことがある。				
4. 入所者の人格無視	よくある	時々ある	たまにある	ない
①入所者を呼び捨てやあだ名、子どものような呼称で呼んだことがある。				
②入所者に対して、威圧的な態度や命令口調で話したことがある。				
③入所者の訴えに対して、無視や拒否をするような行為をしたことがある。				
④入所者を長時間待たせたり、放置したりしたことがある。				
⑤担当専門医の指示によらず職員自らの判断で薬物を使用したことがある。				
5. 入所者への強要制限	よくある	時々ある	たまにある	ない
①入所者に対して、わいせつな発言や行為をしたことがある。				
②入所者の作業諸活動に対して、いたづらにノルマを課したことがある。				
③入所者に嫌悪感を抱かせるような作業・訓練などを強要したことがある。				
④日用品等の購入を制限したことがある。				
⑤家族・友人等への電話や手紙など連絡を制限したことがある。				
⑥自由な帰省、面会、外出を一方向的に制限したことがある。				

(様式 9)

虐待防止チェックリスト 職員用(通所施設)

	よくある	時々ある	たまにある	ない
1. 通所者への体罰など				
①通所者に対して殴る、蹴る、その他けがをさせるような行為を行ったことがある。				
②通所者に対して、身体的拘束や長時間正座、直立等の肉体的苦痛を与えたことがある。				
③通所者に対して、食事・おやつを抜くなどの人間の基本的欲求に関わる罰を与えたことがある。				
④通所者に対する他の職員の体罰を容認したことがある。				
2. 通所者への差別	よくある	時々ある	たまにある	ない
①通所者を子ども扱いするなど、その人の年齢にふさわしくない接し方をしたことがある。				
②通所者の障がいの程度、状態、能力、性、年齢等で差別したことがある。				
③障がいにより克服困難なことを、通所者本人の責めに帰すような発言をしたことがある。				
④通所者の言葉や歩き方等の真似をしたことがある。				
⑤通所者の行為を嘲笑したり、興味本位で接したことがある。				
3. 通所者に対するプライバシーの侵害	よくある	時々ある	たまにある	ない
①職務上知り得た通所者個人の情報を他に漏らしたことがある。				
②通所者の同意を事前に得ることなく、所持品等を確認したことがある。				
③・a(男性職員が) 女性通所者の衣服の着脱、排泄、生理等の介助をしたことがある。				
・b(女性職員が) 男性通所者の衣服の着脱、排泄等の介助をしたことがある。				
④通所者本人や家族の了解を得ずに、本人の写真や制作した作品を展示したことがある。				
4. 通所者の人格無視	よくある	時々ある	たまにある	ない
①通所者を呼び捨てやあだ名、子どものような呼称で呼んだことがある。				
②通所者に対して、威圧的な態度や命令口調で話したことがある。				
③通所者の訴えに対して、無視や拒否をするような行為をしたことがある。				
④通所者を長時間待たせたり、放置したりしたことがある。				
⑤担当専門医の指示によらず職員自らの判断で薬物を使用したことがある。				
5. 通所者への強要制限	よくある	時々ある	たまにある	ない
①通所者に対して、わいせつな発言や行為をしたことがある。				
②通所者の作業諸活動に対して、いたずらにノルマを課したことがある。				
③通所者に嫌悪感を抱かせるような作業訓練などを強要したことがある。				
④家族友人等への電話や手紙など連絡を制限したことがある。				

(様式 10)

虐待防止チェックリスト 職員用(通所施設)

1. 通所者への体罰など	よくある	時々ある	たまにある	ない
①通所者に対して殴る、蹴る、その他けがをさせるような行為を行ったことがある。				
②通所者に対して、身体的拘束や長時間正座、直立等の肉体的苦痛を与えたことがある。				
③通所者に対して、食事・おやつを抜くなどの人間の基本的欲求に関わる罰を与えたことがある。				
④通所者に対する他の職員の体罰を容認したことがある。				
2. 通所者への差別	よくある	時々ある	たまにある	ない
①通所者を子ども扱いするなど、その人の年齢にふさわしくない接し方をしたことがある。				
②通所者の障がいの程度、状態、能力、性、年齢等で差別したことがある。				
③障がいにより克服困難なことを、通所者本人の責めに帰すような発言をしたことがある。				
④通所者の言葉や歩き方等の真似をしたことがある。				
⑤通所者の行為を嘲笑したり、興味本位で接したことがある。				
3. 通所者に対するプライバシーの侵害	よくある	時々ある	たまにある	ない
①職務上知り得た通所者個人の情報を他に漏らしたことがある。				
②通所者の同意を事前に得ることなく、所持品等を確認したことがある。				
③・a(男性職員が) 女性通所者の衣服の着脱、排泄、生理等の介助をしたことがある。				
・b(女性職員が) 男性通所者の衣服の着脱、排泄等の介助をしたことがある。				
④通所者本人や家族の了解を得ずに、本人の写真や制作した作品を展示したことがある。				
4. 通所者の人格無視	よくある	時々ある	たまにある	ない
①通所者を呼び捨てやあだ名、子どものような呼称で呼んだことがある。				
②通所者に対して、威圧的な態度や命令口調で話したことがある。				
③通所者の訴えに対して、無視や拒否をするような行為をしたことがある。				
④通所者を長時間待たせたり、放置したりしたことがある。				
⑤担当専門医の指示によらず職員自らの判断で薬物を使用したことがある。				
5. 通所者への強要制限	よくある	時々ある	たまにある	ない
①通所者に対して、わいせつな発言や行為をしたことがある。				
②通所者の作業諸活動に対して、いたずらにノルマを課したことがある。				
③通所者に嫌悪感を抱かせるような作業訓練などを強要したことがある。				
④家族友人等への電話や手紙など連絡を制限したことがある。				